

資料1-2

★ コンペ開催形式案の一覧

・ 構成員の御意見とご教示いただいた関連イベントを参考に、A~Dのコンペ仮案を立てたところ

案	A案	B案	C案	D案
コンペタイプ	データ指定型 ※テーマも設定はするものの、広めの範囲とする	テーマ指定型	「データ指定」かつ「テーマ指定」型	【Step1】アイデアソン（テーマを広めに設定） →【Step2】ハッカソン（データ提供）
テーマ	<p>例) 次のうちいずれかを総務省で設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGグローバル指標の開発・改良 ・Well-being指標の開発 ・EBPMにおけるKPI指標の開発・改良 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標を開発するのであれば、例えばSDGsであれば何でもOKとするなど、テーマ範囲は広い方が多くの提案を集めることが可能（例えば、震災ビッグデータでは「震災」というテーマだけが決まっており、あとは分析者の自由な発想に任されていた） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単にSDGsやEBPMなどでは、参加者としては何にどう手をつけて良いか分からなくなる可能性 	<p>例) テーマを絞り混む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17のゴールのうち地球環境に関わるダーゲットの指標の開発・改良 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えられることを「待っている」エンジニアも多いと考えられるため、テーマを限定することによりそうした者を動かすことが可能 ・使用できるデータや分析・研究方針がイメージしやすくなる上、審査において、提出された複数アイデアの比較検討が可能 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを限定しすぎると、募集対象の縮小による優秀なアイデアの減少の可能性 	<p>例) テーマを絞り混む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17のゴールのうち地球環境に関わるダーゲットの指標の開発・改良 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えられるのを「待っている」エンジニアも多いと考えられるため、テーマを限定することによりそうした者を動かすことが可能 ・使用できるデータや分析・研究方針がイメージしやすくなる上、審査において、提出された複数アイデアの比較検討が可能 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを限定しすぎると、募集対象の縮小による優秀なアイデアの減少の可能性 	<p>例) 次のうちいずれかを総務省で設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGグローバル指標の開発・改良 ・Well-being指標の開発 ・EBPMにおけるKPI指標の開発・改良 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標を開発するのであれば、例えばSDGsであれば何でもOKとするなど、テーマ範囲は広い方が多くの提案を集めることが可能 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単にSDGsやEBPMなどでは、参加者としては何にどう手をつけて良いか分からなくなる可能性
使用データ	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からデータを提示する。 例) 人流データ、POSデータ、衛星データなど、1種類、もしくは複数を用意する ・参加者が保有するデータやオープンデータ等も併用することも可 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの指定により具体的なアイデア提案が期待（何のデータか未確定でアイデア募集は難しい） ・新たなデータを利用できることをインセンティブに感じる研究者の参加が期待（データが本当に使えるかどうか定かでない中では、コンペに参加する者があるか疑問） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供データの範囲が少ないと、優秀なアイデアが少なくなったり、主催者が期待するテーマ（作りたい指標）に合致しなくなったりする可能性 ・データホルダーからイベントに使用するデータを得るためには、使用者の範囲を限定する必要がある可能性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からはデータを提示しない。テーマにより、参加者からのアイデアを募る <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いアイデア提案が期待 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなデータが使えないため、具体性・新規性のあるアイデアは期待しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からデータを提示する。 例) 人流データ、POSデータ、衛星データなど、1種類、もしくは複数を用意する ・参加者が保有するデータやオープンデータ等も併用することも可 <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの指定により具体的なアイデア提案が期待（何のデータか未確定でアイデア募集は難しい） ・新たなデータを利用できることをインセンティブに感じる研究者の参加が期待（データが本当に使えるかどうか定かでない中では、コンペに参加する者があるか疑問） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供データの範囲が少ないと、優秀なアイデアが少なくなったり、主催者が期待するテーマ（作りたい指標）に合致しなくなったりする可能性 ・データホルダーからイベントに使用するデータを得るためには、使用者の範囲を限定する必要がある可能性が高い 	<p>【STEP1】事務局からはデータを提示しない。テーマにより、参加者からのアイデアを募る</p> <p>【STEP2】STEP1で出たアイデアをベースに、主催者側でデータを購入。アイデアに即して購入したデータをもとに、新指標を提案する</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いアイデア提案が期待 ・「STEP1」により選定したアイデアをベースに、「STEP2」でデータを購入するため、より精度の高いアイデアに対して、データの提供を行える。（事務局側のメリット） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなデータが使えないため、具体性・新規性のあるアイデアは期待しにくい ・2段階方式のため、時間を要する可能性がある
提案レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・データを活用し、研究や分析した結果を成果物として提出。（数値として、指標化したものを提出） <p>※ただし、一部データを入手できなかったこと等の事情により、完成形でなくても可。「●●のデータを活用することによりXXという指標が作成できる」というアイデアの部分があっても良いものとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「このようなデータをベースに、このような指標が作れる」というアイデアを提出することで可 <p>※ただし、オープンデータやビッグデータを使用し、一定の分析が進み、数値化した指標があれば、それを提出物とすることも可</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データを活用し、研究や分析した結果を成果物として提出（数値として、指標化したものを提出） <p>※ただし、一部データを入手できなかったこと等の事情により、完成形でなくても可。「●●のデータを活用することによりXXという指標が作成できる」というアイデアの部分があっても良いものとする</p>	<p>【STEP1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このようなデータをベースに、このような指標が作れる」というアイデアで提出することで可 <p>【STEP2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを活用し、研究や分析した結果を成果物として提出（数値として、指標化したものを提出）